



玉城 勇 議員

待機児童解消の 対策はできているか

答 子ども子育て支援事業計画を見直した

問 待機児童について先日の新聞紙上で南風原町の保育を必要とする子どもの数が大幅に増えているとの報道があった。対策はあるか。

副町長 町における保育を必要とする子どもの数は、平成29年度の保育園入園申込みが1844人、平成30年度が1969人となっている。一年間で125人増えたことから、南風原町子ども子育て会議を開いて、子ども子育て支援事業計画を見直した。

問 年齢毎の待機児童はどのようになっているか。

副町長 平成30年度の入園に向けて、現在調査中だが、0歳児15人、1歳児120人、2歳児42人、3歳児23人、4歳児5人、5歳児1人、計206人となっている。

問 希望する子どもが全員保育園に入園できるように保育園を2園新設する計画がある。どのように取り組んでいくか。

副町長 公募によって実施する予定である。

問 私がずっと提案しているのは親が仕事に就いていても、そうでなくても子どもが入所できるようにするのが南風原町の務めだと考える。子ども達は集団の中で成長させ見守っていくことが重要だと思う。そのためには認定こども園の設置、あるいは認可外の保育園への助成が必要だと思う。検討したことはあるか。

民生部長 保護者の就労に関わらず、本来であれば全ての子ども達を預かりたいと思っている。しかし、施設数、財政的にも当面喫緊の課題として待機児童の解消から取り組んでいきたいと考える。

町長 仕事をしていようがいまいが、最終的には預かるような行政を目指すのが私は一番大事だと思っている。

防犯灯の化の進捗状況LEDはどうなっているか

問 低炭素社会化事業（防犯灯LED化整備事業）は順調に進んでいるか。

副町長 沖縄電力の接続許可が一日あたり50から60灯程度となっているため、時間を要しているが今年度分は完了する予定である。



▲設置されたLED